

2013年5月18日、知人の出演する T&K SINGERS のコンサートを聴きに芝公園のメルパルクホールへ行った。ジャズにもコーラスにも興味が湧かない私であったが、このグループの40周年の折、前田憲男さんが出演するからと勧められて行ったのが初めて、今回は3回目である。3回行くということは当然気に入ったということだ。平均年齢層が高い(と思える)が、指揮者をはじめ皆さんパワーにあふれていて明るい。選曲とアレンジも良く歌にも躍動感があふれている。聴いていて楽しく元気になれる。そして全席自由だが、この日私が捉えた座席は日付と同じ518。ワーイ! やったー! 日本人は遠慮深いから前の方がポッコリ空いていたりする。ラッキー!(単純)

そして開演。私の視線はふとピアニストとピアノの間の空間を捉えて思わず口元がほころんだ。「今夜は乗るぞ。ワクワク」どの演奏者も演奏に臨むとき精神統一するのだろうかけれど、私にとってこの空間が感覚の中でつかめる機会は少ない。因みにピアノ: 森丘ヒロキさん、キーボード: 林良さん、ベース: 箭島裕治さん、ドラム: 岩瀬立飛さん。森丘さんは前回・前々回のキーボード担当者だったが、最初の感覚通り音への乗り方が見事に絵になっていた。そして指揮者: 深澤茂行氏、副指揮者: 羽山幸伸氏。私はこの指揮者の滑らかで優雅な腕の振りがとても気に入っている。そして今回は曲に合わせて足はダンス。これまた自然に決まっていた。指揮者自身が全身で音楽を奏でている。舞台の上は明るくなりコーラスはクレッシェンドがよかった。

さて、今回のプログラムはバック・トゥ・ザ・フューチャーではなくて、バック・トゥ・ザ・80s という1980年代にヒットした曲だ。そして第一部の締めを飾ったのは今回の目玉、私が2回コンサートに行ったマイケル・ジャクソンの曲。BEAT IT~THRILLER~BAD のメドレーで、宮田雅代さんのダンスが入った。乗りましたね、思いっきり。休憩時間で席を立った時、私はBEAT ITを口ずさんでいた。幕開けの「TAKE ON ME」も良かったし、飽きることや気の抜けるところが無い曲目選択と構成も魅力だ。オープニングとエンディングは大事であるが、オープニングがパツとしなかったり、最初の盛り上がりをも2、3曲目で壊すケースが多い中で、このグループは気分の盛り上げ方が実にうまい。映画・ミュージカル・アニメ・ディズニー・T.V.ドラマ



の主題歌など、バラエティに富んでいながら同傾向をブロックごとにまとめた構成が良い。よくバラバラに人気曲だけ寄せ集めたコンサートがあるが私は楽しめない。ブロックごとの構成が「前菜・メインディッシュ・デザート」なら、人気曲寄せ集めは「メインディッシュ・メインディッシュ・メインディッシュ」だから。第二部最後の曲はビリー・ジョエルの「THE STRANGER」と寺尾聰の「ルビーの指環」が似ていることに睡眠中に気付いた指揮者の深澤氏が、二つの曲を合体して生み出した曲だそうだ。そしてアンコールは「We Are The World」とダバダで綴るカルメンの「闘牛士」 過不足ない分量によって満足と爽快感と元気をもらった。それに加えて帰りに見た東京タワーのライトアップが心にホンノリと余韻を残した。(2013.5.19)